

兵庫県姫路市立飾磨小学校

「2019年度 運動会」

学校紹介

飾磨小学校は、姫路市の南部に位置し、商業地、住宅地が広がる昔からの市街地である。また、図書館の分館、市役所の支所、保健所、市立体育館等の公共施設があり、姫路市の副都心としても発展している。秋には、校区の三つの神社で祭りが行われ、子どもを始め老若男女を問わず多くの地域住民が積極的に参加しているため、町ごとに団結する意識が高い。

取組概要等

【取組概要】

学習課題を「2016年のリオデジャネイロオリンピックの閉会式の続きを作ろう」と設定し、6年生一人ひとり全員が学習課題に対して、ストーリーを考え、集団演技を児童と共に創作することとした。児童の意見を集約した結果、「Cool Japan2020～セレモニーof聖火～」を表現することになった。

【取組のねらい】

運動会の集団演技に対して主体的に取り組みながら、表現運動への学びを深めるとともに、オリンピック・パラリンピックへの参画を目指した。

【創意工夫した点】

2016年のリオデジャネイロオリンピックの閉会式の動画を見せ、オリンピックの雰囲気をつかませた。また、オリンピックの歴史と東京2020大会に向けた全体コンセプトを紹介した。音楽に合わせて入場の仕方や演技の内容・隊形を児童に自由に考えさせて、スポーツの楽しさ・日本の美しさを表現した。特別な支援を要する児童も、自分たちが考えた動きであったため、すべての活動に参加することができた。

【取組結果や効果】

演技を通して、児童はオリンピックの模擬セレモニーを作ろうと力を合わせ、活動することができた。運動会後も、スポーツを楽しむ姿やイラストにオリンピックのシンボルを書いたり、「2020」と表記したりする児童が多数みられた。また、夏休みの宿題にオリンピックの絵を描いたり、オリンピックの見所について調べたり、工作で東京2020マスコット「ミライトワ」と「ソメイティ」のイラストを描いたりするなど、運動やオリンピック・パラリンピックへの意欲が高くなった。

【来年度以降の展開予定など】

2020年度運動会においては、全学年においてオリンピック・パラリンピックや世界をテーマとした集団演技を実施したいと考えている。

プログラムの様子



ファンファーレ「スポーツの祭典」では、スポーツの楽しさを表現するために、児童が使用したい表現方法を取り入れて演技内容・隊形をグループごとに自由に考えさせた。最後は、土管から模擬聖火をもった4人が登場して全員でポーズをとった。



「聖火物語」では、リオデジャネイロから日本の飾磨港へと聖火を運ぶ物語。その途中に嵐に巻き込まれる。嵐が過ぎさり、何とか日本にたどり着いた。そこで見た日本はなんと美しく、かっこよい国なのだろうと改めて感じた。飾磨小へと聖火を運び、巨大な聖火台に火を灯す様子はまさに神秘である。※聖火点灯の様子



【児童の意見】
組体操 一輪車
ジャベリックボール
フラッグ
フラフープ
バトントワリング
模擬聖火ランナー
なわとび
棒体操



フィナーレ「創作組体操」では、1年生から5年生がバックダンスとして<NHK>2020応援ソング「パプリカ」を踊る前で、5人組→クラス→学年の順に創作組体操を行った。児童自身で考えた技を披露した。クラス演技には、平和をテーマとした演技を行った。

東京2020アスリート委員会からのコメント

2016年のリオデジャネイロオリンピックの閉会式の続きを作るというテーマ設定により、6年生全員で意見集約してできあがった「聖火物語」というプログラムは素晴らしいと感じました。事前準備としてオリンピックの歴史などの学習を行ったこと、特別支援学級の児童さんとの連携も評価しました。

受賞のコメント

普段の教育活動にオリンピック・パラリンピックを関連付けることで、東京2020大会が子どもたちにとって、身近で特別な存在になります。今回は学習課題の与え方を工夫すること、児童が創り上げていくこと、演技（運動）を全力で楽しむことによって、主体的に運動会の演技に取り組む姿が見られ、生涯にわたって運動を楽しむ子の育成につながったと感じています。